



インスピレーションになるう

WEEKLY REPORT 2018~19

国際ロータリー第 2780 地区第5グループ

相模原大野ロータリークラブ

- ◆会 長:座間 勇 ◆幹 事:布野 一喬 ◆副 会 長:齋藤美希子
- ◆S A A:中丸 剛 ◆会報委員:宮崎雄一郎 ◆URL:http://www.s-oono-rc.jp
- ◆事 務 局:〒252-0238 相模原市中央区星が丘 3-5-16 ◆TEL/FAX:042(755)0901
- ◆例 会 場:相模原ゴルフクラブ 〒252-0331 相模原市南区大野台 4-30-1
- ◆例 会 日:毎週水曜日 12:30~13:30 ◆E-mail:oono-rc@mx1.alpha-web.ne.jp

平成 31 年 2 月 20 日 第 1214 回例会

会長の時間:座間勇

8 月開催の「ひばりの夢コンサート」も少しずつ形になってきて嬉しく思っています。新年度になって直ぐのイベントなので、布野・齋藤次期会長幹事の両肩に重く押し掛かっていると思いますが、皆さんのご協力を宜しくお願いします。特に布野幹事は、3 人目のお子さん誕生と PETS が控えており、会員全員で支えて行かなければならないと思っています。私の年度も 4 ヶ月残っていますので、しっかりと務めて行かなければなりません。今考えているイベントは、5/19(日)「オールドナウ・チャリティフェスティバル」と題し、車を並べて愛でる会の様なものを行う予定です。当初、相模原 GC の駐車場をお借りできればと考えていましたが、繁忙期の土日は難しいという事で、相模湖プレジャーフォレストの駐車場はどうかと、相模原 RC の根本さんにお口添えをお願いしました。チャリティなので格安でお願いできればと思っています。車の手配は、最新型のマクラーレンや、相模原 RC の比嘉会員のご協力を得て、5~60 年前のクラシックカー等が集まる予定です。初めての事なので、どれほどチャリティが集まるかは分かりませんが、多くの方々のご協力を頂き、面白いイベントにしたいと思っています。ロータリーの親睦に繋がるイベントにもなり、第 5 グループは勿論、それ以外の RC にも声を掛けていきますので、繋がりが広がっていくこともロータリーではないかと思っています。是非お手伝い頂き、他クラブの方々とも仲良くなって更に輪を広げて下さい。

エントリー費を 5,000 円位にして、弁当・飲料代を差し引いた分をチャリティに出来ればと思っています。

幹事報告:布野一喬

- ・相模原かめりあ RC チャーターナイトの案内
4/14 (日) 12:30 センチュリー相模大野 8F
登録料:10,000 円/1 人 返信期限:3/15 (金)
- ・相模女子大「車椅子プロジェクト報告会」の案内
3/1 (金) 13:45 相模女子大ガーデンホール

その他来信 ハイライトよねやま 227 号
ハンブルグ国際大会参加旅行案内

例会変更 ※ビジター受付=クラブ事務局 ※受付無
2/22 (金) 大和田園
2/25 (月) 相模原柴胡※
2/26 (火) 相模原南 大和



《理事会報告》

- * ひばりの夢コンサート/申請書確認後提出
終了後 1 か月以内に報告書提出の義務あり、記録係・映像係必要、議事録も残すべき。
- * 相模原かめりあ RC 認証伝達式/全員登録の提案有
- * 米山世話クラブ/引受可 (カウンセラー・角尾会員)
- * 青少年交換 HC/引受否 (相模原グリーン RC に)
- * 3、4 月のプログラム/クラブ HP でご確認下さい

委員会報告

齋藤美希子 実行委員長

先週のクラブ協議会を経て、地区補助金申請書を作成し直しました。既に経費が発生している点については、経緯や結果を詳細に説明しています。プロジェクト実施に必要な広報については、会場入口の看板設置、パンフレット作成を行う旨を付け加え、受益者の欄には、「相模原市内各小学校への吹奏楽の働き 掛け」と言う一文を加えました。予算は、看板・パンフレットに 5 万円を計上したので、参加者へ配布する飲料代が賄えなくなり、クラブ奉仕会計若しくは、皆さんのポケットマネーで対応せざるを得なくなりましたのでご了承ください。今週中には地区へ提出します。

卓話:国境なき医師団(MSF)について



宮崎雄一郎 会員

国境なき医師団 (MSF) は、今は大きな組織で、医師・看護師・メディカル関係・事務系・物資運搬等を含めた数千人の組織です。活動は、内戦状態にある国で、厳しい生活を余儀なくされている人々に保健医療サービスを提供しています。戦闘や爆撃で負傷したり、病気になっても診療が受けられず、食料が十分に

行き渡らないために栄養失調やコレラやマラリアなどの感染症の危険、国によってはエボラ出血熱等、厳しい環境下にある人達が大勢います。イエメンの状況を見ますと、サウジアラビアが支援する人達と、イランが支援する人達の間で内戦状態にあります。その様な状況下で日々生活をしなければならない、負傷者・病人・栄養失調になった人達を助けているのが国境なき医師団だと思ってください。MSFは、独立・中立・公平の原則と、ボランティア精神に深く基づく人道援助活動、世界中でこの様な活動を行う場を作り出すこと、人間の尊厳を脅かすものには拒否の態度を貫き、言葉で証言することを目的とした民間・非営利の国際団体で、ここにロータリーと相通じるところがあると思っています。1971年に設立され、1992年には日本にも事務局が発足しました。MSFの活動は緊急性の高い医療ニーズに応えることを目的とし、紛争や自然災害の被災者、貧困など様々な理由で保健医療サービスを受けられない人々等、その対象は多岐にわたります。MSFは世界各地に37事務局を設置し、主な活動地はアフリカ・アジア・中東・中南米等で、2017年は70ヶ国以上で活動しました。1年間で約45,000人の海外派遣スタッフ・現地スタッフ・事務局スタッフが世界各地で働いています。MSF日本からは117人を派遣し、派遣回数は延べ169回、29ヶ国で活動しました。私の元同僚の整形外科医も海外に派遣されています。MSFの活動は、

①第一に医療援助活動 ②証言活動 ③医療倫理の遵守 ④人権の擁護⑤独立性の配慮 ⑥基本原則：公平性 ⑦中立性の精神 ⑧義務と透明性 ⑨ボランティアからなる組織 ⑩メンバー1人ひとりが参加し動かす組織、という原則があります。MSFは設立して50年近くなりますが、その歴史は1968年~1970年にかけて、赤十字の医療支援活動のためにナイジェリア内戦に派遣されたフランス人医師たちを中心に設立されました。ナイジェリアでの活動から戻った彼らは、各国政府の中立的態度や、沈黙を守る赤十字の活動に疑問を抱き、限界を感じました。全ての人々が医療を受ける権利があり、医療の必要性は国境よりも重要だとの信念から1971年12月20日に「国境なき医師団」が生まれました。1979年にはエチオピアで、大干ばつと政府の失策で

出席報告

100万人以上が死亡し、栄養治療

会員数	免除者	出席者	欠席者	他RCメイク	その他R活動	本日の出席率	修正出席率
15名	1名	8名	6名	1名	4名	57.14 %	2/2 64.29 %

を大規模に展開しました。1991年には、湾岸戦争と内乱で難民となったクルド人への援助活動を開始し、物資2,000トン、スタッフ150人の過去最大の活動をしました。1995年、ボスニア・ヘルツェゴビナの国連保護地域がセルビア人の攻撃を受け、多くの人が殺され、強制的に移住させられました。その時、唯一現場にいたMSFは「証言者」になりました。1999年、28年間の人道支援活動が評価され、ノーベル平和賞を受賞し、授賞式でロシア軍のチェチェン市民無差別爆撃の停止を訴えました。2003年、イラクが米英軍の攻撃を受けた時、現地に留まり病院の診療活動を支援、2010年、ハイチ大地震直後から医療活動を開始し、35万人以上を治療しました。その後コレラが流行し、50か所に治療施設を開き1年間で17万人以上を治療、2011年、東日本大震災の翌日から緊急医療援助活動を開始、2012年以降、シリア・アフガニスタン・イエメンなどで続く内戦に、国内外で医療援助を行っています。またギニア・リベリア・シエラレオネ等7ヶ国で、エボラ出血熱に対して取り組みを行っています。MSFには憲章があります。“苦境にある人々、天災、人災、武力紛争被災者に対し人種・宗教・信条・政治的関わりを超えて差別することなく援助を提供する。”“普遍的な医の倫理と人道支援の名の下に、中立性と不偏性を遵守し、完全かつ妨げられることのない自由を持って任務を遂行する。”“国境なき医師団のボランティアは、その職業倫理を尊び、全ての政治的・経済的・宗教的権力から完全な独立性を保つ。”“国境なき医師団のボランティアは、その任務の危険を認識し、MSFが提供できる以外には自らに対していかなる補償も求めない。”です。ロータリーとMSFには人道的奉仕という共通点もありますが、自主独立運営と言う点では異なります。ロータリーはポリオ撲滅に注力してきましたが、飢餓やエボラ出血熱・コレラで亡くなる子どもは何百万人とも言われ、MSFはこれらにも挑戦しています。ポリオ撲滅も大事な事ですが、実際に亡くなる子どもの命を考えた時、これで良いのかと言う疑問に駆られます。

スマイル報告 今年度累計 ¥206,000

齋藤美希子 会員 先週は主人の誕生日のお祝い、有難うございます。すっかり忘れていました。夜、寝る前にチビチビ飲みたいと思います。